

入(退)堂御和讃

菊 地 謙 雄 作詞
曾 我 晃 也 作曲

入堂 = 63ぐらい 退堂 ♩ = 72ぐらい

[齊唱]

入 { きよらな—るみず よも—にふり はちすの—
ゆらぐこ—うえん そら—にみち あけきみ—
退 { ごくらく—じょうど そ—の—ま—まりに ぼんばい—
ほうえの—まくは い—ま—お—り—て しきえの—

さんか そら—に まう ほ—う—こ—は たか—く—
あかし ちを—て らす か—ん—し—ょう た—す—で—に—
のこえ おご—そ—か—に— ほ—と—け—の—お—し—え—
しょうじゅ さり—た—も—う ほ—と—け—の—お—し—え—

なりひびき しょうごん すで—に— そ—な—わ—れ—
たかなりて しょうじゅ— し—ず—か—に— い—り—た—も—
とりつぎし ほ—う—え—ん— すで—に— し—ず—ま—れ—
あすのひの く—ら—し—に— い—か—す— よ—ろ—こ—び—

にゅう どう 入 堂 和 讃

菊地 謙雄 作詞

- 1 清らなる法水^{みづ} 四方^{よも}にふり
蓮^{はちす}の散華^{そら} 天に舞う
法鼓は高く 鳴りひびき
莊嚴すでに 備われり
諸^{もろびと}人共に 掌^てを合せ
今法筵^{ほうえん}の 時いたる

- 2 ゆらぐ香煙^{こうえん} 天^{そら}に満ち
あけきみあかし 地を照らす
喚鐘^{かんしょう}すでに 高鳴りて
聖衆^{しょうじゅう}静かに 入り給う
諸^{もろびと}人共に 掌^てを合せ
今法筵^{ほうえん}の 時いたる
南無阿弥陀仏 南無阿弥陀仏

たい どう 退 堂 和 讃

菊地 謙雄 作詞

- 1、極楽浄土 そのままに
梵唄^{ぼんばい}の声 厳かに
仏の教え とりつぎし
法筵^{ほうえん}すでに 静まれり
諸^{もろびと}人共に 掌^てを合せ
此^{この}の法悦^{ほうえつ}を 謝しまつる

- 2、法会^{ほうえ}の幕は 今^お降りて
式会^{しきえ}の聖衆^{しょうじゅう} 去り給う
仏の教え 明日の日の
生活^{くらし}に生かす 喜びを
諸^{もろびと}人共に 掌^てを合せ
念仏となえて 謝しまつる
南無阿弥陀仏 南無阿弥陀仏

ポイント注意

「入堂和讃」は、テンポ心もちゆったりと。「退堂和讃」は、入堂より心もちはやく遅過ぎないようにさらさらと。共にラストのお念仏は、導師・式衆の行動・動作をよく見て、ちぐはぐにならないように。あくまでも助奏樂であることを忘れないように。

(楽譜は 60 ページ)